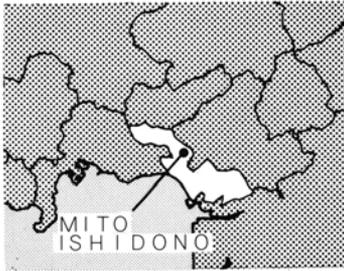


## 石堂野遺跡

石堂野遺跡は、御津地区の新設高等学校の建設に伴い、県教委の分布調査及び試掘調査によって新たに認知された遺跡である。調査区は、宝飯郡御津町豊沢地内にある南東に舌状にのびる丘陵上の平坦地に位置し、遺跡はさらに西側（豊沢の集落）の平坦地に拡る。また西側は谷地形で、そのまま南西側に開け平野部となり、三河湾を程近くに望むことができる。調査面積は600㎡。

石堂野遺跡は大別すると四時期に分けられる。

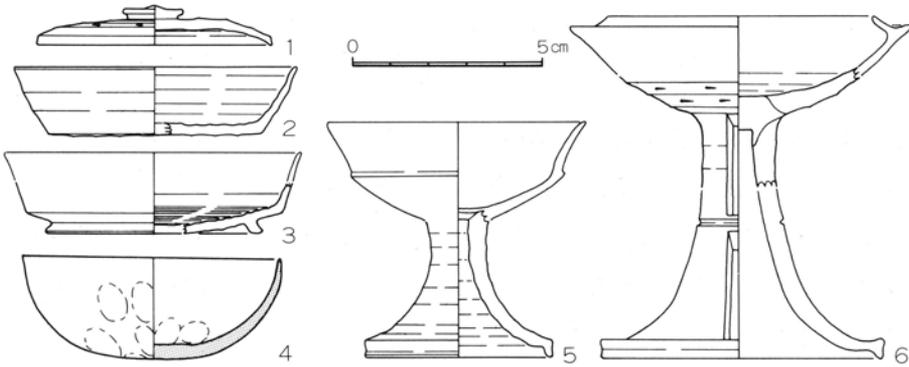
**I期** 弥生時代～古墳時代前期にあたる。遺構は検出されず、欠山式期から元屋敷期のパレススタイルの壺、S字状口縁甕、高杯、小型高杯や石鏃、磨製石斧などの遺物のみが出土している。



**II期** 7世紀～9世紀にあたる。遺構としては竪穴住居跡21軒、掘立柱建物1軒が検出されている。竪穴住居跡は全て方形を呈し、一辺4m前後の小規模なものが多いが、その内やや大きめなものが3軒あり、一辺7mを測る。住居は、集中地点からみて、北西群と南東群の二群に分かれており、その中央部分には方形に回る溝が検出された。



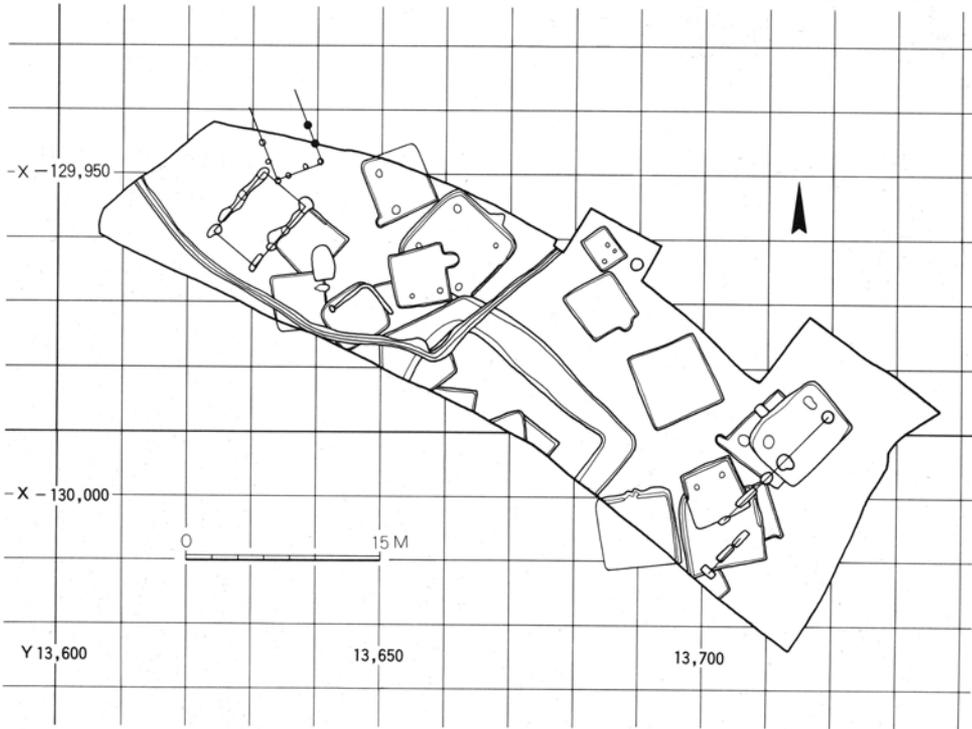
石堂野遺跡位置図 1 : 25000



SK 124 出土土器 1 : 4

**Ⅲ期** 16～17世紀にあたる。遺構としては、3間×2間の掘立柱建物1棟、柵状遺構2列がみられる。建物には、桁行側の柱穴を繋ぐように溝が掘られており、板屏などの施設が考えられる。遺物は、天目茶椀、羽釜が出土している。

**Ⅳ期** 幕末～明治初期にあたる。遺構としては、ほぼ等高線に沿ってL字状に曲がりながら走る溝があり、耕作用の水利施設かと思われる。(宮腰健司)



石堂野遺跡遺構図